

## 報告

# Self-Access Learning Center による日本語学習促進の仕掛け ——言語パートナーを見つけるアクティビティの実践とその考察——

寺嶋弘道

立命館アジア太平洋大学 言語教育センター

(キーワード: Self-Access Learning Center, 言語パートナー, 言語エクステンジ)

## Language Exchange Partner Finding Activity for Japanese Language Learners in the Self-Access Learning Center: Practice and Consideration of SALC Activity

Hiromichi TERAJIMA

Center for Language Education, Ritsumeikan Asia Pacific University

(Key words: Self-Access Learning Center, Language Exchange, Language Partner)

### 1. はじめに

言語科目の学習は、教室の中だけで成立するものではない。学習者は日々、教室外で予習や復習、指示された宿題などに取り組むことが求められる。また、学習言語が使用されている国で学ぶ学習者であれば、教室外でコミュニケーションの手段として学習言語を使用し、そこから学ぶ機会も多いだろう。そういった教室外での言語学習が言語能力と関係があることは想像にかたくないが、学習者の中には、教室外での言語学習に何らかの支援を必要とする者がいる。

立命館アジア太平洋大学（以下 APU）では、学習者の言語の自主学習をサポートする機関として、2008 年度から自主学習センター（Self-Access Learning Center 以下 SALC）を開設し、筆者も現在、日本語学習者のサポートを行う日本語セッションのコーディネーターとしてその運営に携わっている。このような言語の自主学習をサポートする機能を持った国内の施設としては、神田外国大学の取り組み<sup>1)</sup>がよく知られているが、現在は多くの大学で設置する動きが見られる。

APU の場合は英語学習者（以下 EL）と日本語学習者（以下 JL）が利用できる施設であることが特徴である。現在、SALC の JL 用のリソースとしては、学習テキスト、学習者向け辞書、レベル別多読本、日本語能力試験やビジネス日本語能力試験に対応した問題集、漢字カード、まんが、日本人児童向け書籍、雑誌、映画の DVD などを揃え

ている。また、日本語での会話練習を目的として、1 週間に 17 コマ（1 名/1 コマ）、日本人学生から選抜したピア・アドバイザー（Peer Advisor 以下 PA）を配置している。他にも、英語セクションと協力してサルク通信という機関紙の発行<sup>2)</sup>、言語エクステンジ<sup>注 1)</sup>を行うパートナーを探すための掲示板の設置も行っている。2012 年度の 4 月からは JL と EL の交流の場を提供し、言語学習を促進するという目的で SALC アクティビティも開始した。

このように SALC では様々な方法を通じて言語学習の支援を行っている。本稿ではその中で、2012 年春学期に英語セクションと共同で行った SALC アクティビティ、「夏休みのスカイプ言語パートナーを探そう」という企画の内容と事後アンケートの調査結果を報告し、今後の SALC アクティビティの運営について考察したい。

### 2. 国際的な環境としての問題点

APU では英語と日本語の 2 言語で教育を行っている。入学者は日本語基準と呼ばれる日本語で講義が受けられる能力を持つ者と、英語基準と呼ばれる英語で講義が受けられる能力を持つ者に分けられており、入学すると、それぞれが異なる言語の学習を課されることになる。たとえば、英語基準での入学であれば 16 単位の日本語学習、日本語基準での入学であれば 24 単位の英語学習が必修となっている。2012 年 11 月の報告<sup>3)</sup>によれば、

学部生 5262 名のうち 42% が留学生となっており、その国籍は全部で 73 か国となっている。

大学では授業だけでなく、事務においても 2 言語制度を取り入れているため、入学したばかりで日本語がわからない者であっても、事務からの情報であれば、英語で情報入手が可能になっている。また、大学では日本語がわからなくても生活できるよう大学に隣接した場所に寮を完備しており、ほとんどの英語基準の新入生は 1 年間、その寮で生活することになる。そして、寮の中にはレジダント・アシスタントと呼ばれる先輩が住んでおり、日本語・英語のどちらの言語でもサポートが受けられるようになっている。寮には EL も住んでいるため、日本語が使用できる場面もあるが、それらをうまく活用できない JL もいるようである<sup>4)</sup>。

さらに、留学生の学内でのコミュニケーションを観察すると、英語や日本語以外の言語でコミュニケーションしている者も見られる。たとえば、APU で受け入れが多い中国や韓国、タイ、インドネシア、ベトナムといった国の留学生は、学内で同地域出身の学生と会う機会も多いため、母語で話す機会も自然と多くなるようだ。

このように大学内では様々な言語が使用されているため、日本語を使用しなくても学生生活が行えるような環境がある。もちろん、日本語を使用する機会も多くあるのだが、JL の中にはそれをうまく活用できない者もいるのが実態だ。そのような理由から、日本語を使用するような仕掛けをどのように作るかが SALC の重要な課題となっている。

### 3. SALC としての取り組み

現在、SALC の日本語セッションでは JL の日本語を使用する機会を増やすことを目的として、3 つのことに取り組んでいる。まずは、PA による会話サポートである。このサポートでは、一人 20 分の会話練習を行うことが可能である。自主的にサポートを受ける者が多いが、日本語の授業でのタスクとしてサポートに来る者、教師との相談の結果サポートを受けに来る者もいる。2011 年秋学期に PA によるサポートを受けた JL の数は 152 名で、このうちの多くは複数回のサポートを受けて

いることが報告されている<sup>5)</sup>。

2 つ目は、言語パートナーを探すための掲示板の設置である。言語パートナーとは、お互いに異なる言語を教え合うパートナーのことである。言語パートナーを探したい者は、所定の用紙に、学びたい言語、教えられる言語、自分のプロフィール、メールアドレスを記入し、SALC に提出する。すると、事務局のほうでその内容がチェックされ、掲示板に張り出される仕組みとなっている。その後、その用紙を見て関心を持った者が自主的に連絡を取り、話がまとまれば、言語エクステンジを行うことになる。2011 年秋学期に貼りだされた募集は全部で 19 枚、そのうち日本語が教えられるという募集は 13 枚、2012 年春学期の募集は 86 枚、そのうち日本語が教えられるという募集は 70 枚であった。現在のところ、SALC では募集用紙を張り出す以外には特別なサポートをしているわけではない。したがって、どの程度言語エクステンジが行われているか実態を把握できないのが現状である。

3 つ目は SALC アクティビティの実施である。これは、JL と EL の交流の場を提供し、言語学習を促進するという目的で 2012 年度より始めたものである。表 1 は 2012 年春学期に実際に行った SALC アクティビティの日程と参加者の人数である。

表 1 SALC アクティビティの参加者

日付	参加者	
	JL	EL
4/25 (水)	12 名	5 名
5/9 (水)	7 名	4 名
7/11 (水)	17 名	21 名
7/18 (水)	19 名	27 名

それぞれの SALC アクティビティでは、コーディネーターとなる PA がお互いのことを知り合えるようなタスクを提供し、最後に自由会話の時間を設けるといった流れとなっている。上記の 4 回のうち、後半の 2 回は SALC の英語セッションとの共同開催であった。共同開催になった理由は、SALC が閉室してしまう夏休みも、継続的に日本

語学習が行えるような人的なリソースを見つけてもらえるよう「夏休みに Skype で言語エクステンジを行う言語パートナーを探そう」という企画を日本語セクションで考えていたところ、英語セクションもこの内容に強い関心を持ってくれたからであった。この SALC アクティビティは、お互いを知り合えるようなアクティビティや自由会話の時間を提供するという点は、それまでの SALC アクティビティと変わらなかった。それまでと違うのは、言語パートナーを見つけるという目的を明確に打ち出した点であった。表 1 からわかるように、結果的にこの企画は 2 日間で 36 名の JL と 48 名の EL が参加した。それまでの SALC アクティビティでは企画をしても、なかなか参加者が集まらないという問題があったが、この企画の参加者は多く、関心が高かった。

#### 4. 研究の概要

##### 4.1 研究目的と研究方法

3 で述べた言語エクステンジを行うためのパートナーを探そうという目的を明確に打ち出した企画は、JL と EL との交流の場を提供できるだけでなく、掲示板を用いて言語パートナーを探す方法もよりも効率的に言語エクステンジを行う学習者を増やせるのではないかと期待している。本稿では、この SALC アクティビティの内容を報告し、直後に行ったアンケート調査の結果と夏休み後のアンケート調査の結果をまとめ、今後の SALC アクティビティのあり方について考察したい。

##### 4.2 SALC アクティビティについて

SALC アクティビティは、1 コマ (95 分) で行っている。このアクティビティの募集は、毎回、日本語と英語で学内のポータルサイトでアナウンスされる。参加したい者はオンラインアンケートにアクセスし、学籍番号や名前、言語基準といった個人情報を入力することで参加することができる。

夏休みに Skype で言語エクステンジを行う言語パートナーを探そうという企画を提供するに当たっては、いくつか気をつけるべき点があるとい

う認識が日本語セクションと英語セクションのコーディネーターの間であった。それは、積極的に話せない参加者、自分の意志をはっきり示すことができない参加者、相手の気持ちを考えず自分の気持ちばかりを押し付けてしまう参加者がいるのではないかということであった。そこで、SALC アクティビティの開始時には英語と日本語で、言語パートナーを見つけるのには積極性が必要であること、必ず言語パートナーが見つかる保証はないこと、自分が嫌だと思った場合ははっきりと自分の意志を伝え、自分で責任を持って参加者と対応するという注意点についても説明した。

当日、この点について説明した後は、参加者は 2 つのグループに分かれ、日本語セクションの PA が提供するアクティビティと英語セクションの PA が提供するアクティビティに参加してもらった。両セクションで提供したアクティビティは、当日の担当になる PA がアイデアを出して考えたものであった。各アクティビティは 25 分間だが、その後は PA が入れ替わり、異なるアクティビティに参加してもらった。以下の「自己紹介ビンゴ」は日本語セクションの PA によるアクティビティ、「私はだれ？」は英語セクションの PA によるアクティビティである。2 つのアクティビティの後には、異なるグループとのコミュニケーションを促すため、参加者全体で自由会話ができるような時間を 25 分間設けた。PA はアクティビティや自由会話の時間に参加者同士のコミュニケーションが促進できるよう、マッチングのサポートに努めた。

##### <自己紹介ビンゴ>

4×4 のマス目に 16 のテーマが書いてある紙を参加者に渡す。紙には、「テレビが嫌い」、「料理が好き」といった短い文が書いてあり、人によって書かれていることが異なっている。参加者は、4 分ごとに、JL と EL でペアを作る。ペアを作ったら、最初に自己紹介をし、表の中からトピックを選んで、相手に答えてもらう。その答えが相手に該当すれば、それを塗りつぶし、ビンゴのようにラインを完成させる。

<私はだれ?>

参加者に紙が渡され、それぞれの参加者が紙に自分の特徴を 3 つ～5 つ書く。自分の興味があること、これまでの経験など何でもよい。そして、それを集めてシャッフルし、参加者にもう一度配る。参加者は受け取った紙に該当する人物を探す。見つけたら、その人と手をつなぎ、同じグループになる。そして、グループで所有している紙に書かれている該当者を協力して探し、大きなグループを作っていく。

と評価をしている者も多く参加しており、日本語のレベルが上がっても、この企画が受け入れられていることがわかる。

表 2 回答者の内訳 (学年別)

	JL	EL
1 年生	18 名	26 名
2 年生	3 名	7 名
3 年生	8 名	2 名
4 年生	4 名	5 名

5. SALC アクティビティ後の質問紙調査

5.1 調査内容と方法

2012 年 7 月 11 日と 7 月 18 日の SALC アクティビティ終了後に、参加者に質問紙調査の協力の依頼を行い、回答してもらった。JL は参加者 36 名のうち 33 名、EL は 48 名のうち 40 名が協力した。

この質問紙は、国籍や言語のレベル、学習言語の使用機会、SALC の利用といった個人の情報について問うセクション 1 と SALC アクティビティについて問うセクション 2 に分かれている。5 件法で回答を得たものは、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」という選択肢で、集計のさいにはそれぞれ 5 点から 1 点までの得点をつけた。そして、JL と EL の平均値に有意差があるかを調べるため、Student-T 検定を行った。

表 3 回答者の内訳 (話す能力別)

	JL	EL
初級-初中級	9 名	20 名
中級-中上級	16 名	18 名
上級以上	8 名	1 名
不明	0	1 名

EL の出身地は 2 名を除けば<sup>注2)</sup>、全て日本であった。一方、JL の出身地は、中国 7 名、ベトナム 6 名、タイ 3 名、韓国、台湾、アメリカ、バングラデシュ、スリランカ、インドネシアは各 2 名、その他の地域は 4 名<sup>注3)</sup>であった。

JL には日本人学生の友達が多いかを、EL には留学生の友達が多いかを聞いたところ、JL の平均値は 3.42、EL の平均値は 2.85 で、JL のほうが有意に多いことがわかった ( $t(70) = 2.46, p < .05$ )。どちらの学習者も「友達」という定義を同じものとして捉えたのであれば、EL よりも JL のほうがより反対言語基準の友達<sup>注4)</sup>が多いということになるが、EL の友達の定義が JL より狭いため、このような結果が出ている可能性もある。

5.2 回答者について

まず、質問紙調査の回答に協力したのは、どのような学習者だったかを質問紙のセクション 1 の結果に基づいて見ておきたい。

性別の内訳は、JL は男性 14 名と女性 19 名、EL は男性 13 名と女性 27 名であった。全体として、女性の参加者が多いことがわかる。学年の内訳は表 2 のようであった。表 2 からわかるように、JL も EL も 1 年生の学習者が圧倒的に多いものの、2 年生以上の学習者も多く参加していることがわかる。

表 3 は、学習者が学習言語の話すレベルを自己評価したものである。EL の話すレベルは、ほぼ初級から中上級のレベルだが、JL の場合は上級以上

また、授業以外の時間にも学習言語を話す時間があるかを聞いたところ、JL の平均値は 3.02、EL の平均値は 2.31 となり、JL のほうが有意に学習言語を話していることがわかった ( $t(70) = 2.98, p < .05$ )。国際大学として英語と日本語での教育が行われていても、日本での生活者である以上、JL が EL よりも、学習言語を話す機会は多くなるのは当然のことだろう。

5.3 SALC アクティビティについての回答結果

表 4 は質問紙の中で今回の SALC アクティビティについて聞いたセクション 2 の結果である。質問 3 と 8 以外は「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 5 件法で回答を得た。

表 4 質問紙調査の結果

質問	平均値 (標準偏差)	
	JL	EL
1 今日、アクティビティを楽しむことができた。	4.52 (0.67)	4.40 (0.55)
2 今日、良い言語パートナーを見つけることができた。	4.31 (0.64)	3.90 (0.78)
3 言語パートナーを何人見つけることができましたか。	5.16 (2.42)	4.28 (1.89)
4 夏休みに言語パートナーと話せれば、学習のモチベーションになると思う。	4.15 (0.80)	4.30 (0.65)
5 夏休みは言語パートナーと話す以外にも、いろいろな方法で言語を学習しようと思う。	4.24 (0.66)	4.43 (0.59)
6 言語パートナーがいなければ、夏休みに言語学習をしないと思う。	2.45 (1.35)	2.40 (0.96)
7 夏休みはできるだけ多く言語エクステンジをしたいと思う。	4.30 (0.88)	4.20 (0.69)
8 あなたの希望は 1 週間に何時間ですか。	5.13 (5.52)	4.45 (3.05)
9 今後もサルクでは言語パートナーを見つけるアクティビティを続けたほうがいいと思う。	4.48 (0.71)	4.55 (0.55)
10 今回のアクティビティについて改善点などがあると思う。	3.03 (1.07)	2.88 (0.99)

まず、アクティビティが楽しめたかを問う質問 1 では、JL, EL のどちらも非常に高い平均値を示しており、楽しめる環境を提供できたといえるのではないだろうか。しかし、良い言語パートナーを見つけることができたかを問う質問 2 では、JL の平均値が 4.31, EL の平均値は 3.90 となり、JL のほうが有意に高いことがわかった ( $t(70) = 2.40, p < .05$ )。これに関連してか、見つけられた言語パートナーの数を問う質問 3 では有意差があるとは

言えなかったが、やや JL の平均値のほうが高い。

その他、言語パートナーとモチベーションの関連性を問う質問 4 と 6, 夏休みの言語学習の方法を問う質問 5, 夏休みの言語エクステンジに対する意気込みを問う質問 7, 言語エクステンジの希望時間を問う質問 8, SALC アクティビティに関する質問 9 と 10 では、JL と EL との間で若干の平均値の違いは見られるものの、有意差があるほど大きな違いがあるとは言えなかった。

では、良い言語パートナーを見つけられなかったという学習者はどのような学習者であろうか。それを調べるために、「反対言語基準の友達が多い」と「良い言語パートナーが見つけれられた」という 2 項目の質問に対する答えを、そして、「学習言語を話す機会があるか」と「良い言語パートナーが見つけれられたか」という 2 項目の質問に対する答えをそれぞれクロス集計表にした (表 5 表 6)。

表 5 友達の多さとのクロス集計表

		良い言語パートナーが 見つけられた		
		否定	中間	肯定
反対言語 基準の友 達が多い	否定	1 名	7 名	11 名
	中間	0	5 名	20 名
	肯定	0	2 名	25 名

※無回答 2 人

表 6 話す機会の多さとのクロス集計表

		良い言語パートナーが 見つけられた		
		否定	中間	肯定
学習言語 を話す機 会がある	否定	1 名	9 名	19 名
	中間	0	4 名	24 名
	肯定	0	1 名	12 名

※無回答 3 人

表 5 からわかるように、反対言語基準の友達が多いかという問いに対して否定的に答えた学習者は、良い言語パートナーが見つかったかという問いに対しては中間が 7 名、否定が 1 名となっており、肯定的に答えた学習者が少ないことがわかる。また、表 6 においても、学習言語を話す機会があるという問いに対して否定的に答えた学習者も、

同じような傾向がある。それぞれのクロス表で関連があるかを調べるため検定を行ったところ、どちらも有意に関連があることが認められた (Fisher の正確確率検定  $p < 0.05$ )。つまり、良い言語パートナーが見つけれられることと、反対言語基準の友達が多さ及び、学習言語を話す機会の多さの間には有意に関連があり、反対言語の基準の友達が少ない学習者や学習言語を話す機会が少ない学習者は、良い言語パートナーを見つけられなかったといえる。5.2 でも述べたように、今回の参加者では、JL に比べると、EL は反対言語の友達や学習言語を話す機会が少ない傾向が全体として見られ、それらの傾向が強い学習者が良い言語パートナーを見つけられなかった結果、質問 2 において EL の平均値が低くなったと考えられる。

では、反対言語の友達が少ない学習者や学習言語を話す機会が少ない学習者はなぜ良い言語パートナーを見つけられなかったのか。さらに詳しく探るため、自由記述で回答を得たアクティビティの改善についてのコメント、アクティビティに関するコメントを分析した (表 7)。

表 7 自由記述式の回答の結果

コメント内容	数
良いアクティビティだった/楽しかった	30(10)
この企画に感謝したい	9(5)
もっとこの企画で開催してほしい	5(2)
グループを変えてほしかった	5(1)
もっと楽しいアクティビティを考えてほしい	3(2)
時間が足りなかった	3(1)

表 7 には、3 つ以上の回答があったもののみを示している。コメント数は JL と EL のコメント数を合わせたもので、括弧の中は JL のコメント数を示している。集計方法は次の通りである。たとえば、「楽しい企画をありがとうございます。夏休みに限らず月 1 回などの定期的でしたらいかがでしょうか (日本人女性)」のようなコメントの場合、「この企画に感謝したい」という点と「もっとこの企画で開催してほしい」という点に触れているため、それぞれでカウントした。

EL の否定的なコメントとして多かったものは、「グループを変えてほしかった」という点と「時間が足りなかった」という点である。詳しく調べると、良い言語パートナーを見つけることができたという問いに対して、「どちらとも言えない」を選んだ学習者の多くは、これらのコメントを書いたことがわかった。そして、上記 2 つの否定的なコメントに当てはまらない者も、「もっと小さなグループを作ってほしい」、「いっそパートナーを決めてほしい」といったコメントを書いていた<sup>注 5)</sup>。

4.2 で述べたように、SALC アクティビティは、最初に 2 つの大きなグループに分かれ、その中で全員ができるだけ多くの人と交流できるようなアクティビティを提供し、最後には全体での自由会話の時間を設けている。1 コマという限られた時間の中で、できるだけ多くの人と交流するためある程度のスピード感を持たせ、他のグループとも交流するという目的で自由会話を設けたが、反対言語の友達が少ない、あるいは目標言語を話す機会が少ない EL にとっては、これらの環境がうまく機能しなかったと考えられる。それらの学習者は言語パートナーを見つけるためにじっくり一人一人と話す時間、そして様々な人と話す時間ももっと必要だと考えており、それを運営側にきちんと与えられることを求めている。

## 6. 夏休み後の調査

### 6.1 調査内容と対象

夏休みが明け、授業が開始した 2012 年 10 月初めに SALC アクティビティ直後の回答に協力した JL と EL にオンラインアンケートへのリンクを含んだメールを送信し、2 週間以内に回答に協力してほしいという依頼を行った。最終的に回答をしたのは 33 名 (JL15 名, EL18 名) であった。JL の出身地の内訳は、中国 3 名、ベトナム 3 名、タイ 2 名、ガーナ、韓国、台湾、スリランカ、インドネシア、バングラデシュ、ネパールが各 1 名であった。一方、EL の出身地は全て日本であった。

### 6.2 調査結果

まず、実際に夏休みに言語エクステンジを行った JL は 15 名のうち 10 名、EL は 18 名のうち

11 名であった。表 8 は、オンラインアンケートの結果をまとめたものである。質問 3 から 5 までは、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 5 件法で回答を得ており、それぞれ 5 点から 1 点までの得点をつけた。

表 8 オンラインアンケートの結果

質問	平均値 (標準偏差)	
	JL	EL
1 何人と言語エクステンジをしましたか。	3.00 (2.36)	1.36 (0.48)
2 1 週間に何時間、言語エクステンジをしましたか。	5.00 (7.66)	4.55 (5.73)
3 夏休み前と比べて、言語能力は向上しましたか。	3.44 (0.92)	3.45 (1.16)
4 夏休みの言語エクステンジに満足していますか。	3.90 (0.54)	3.82 (0.83)
5 同じ言語パートナーと言語エクステンジを今後も続けたいですか。	4.70 (0.46)	4.73 (0.62)

まず、何人と言語エクステンジをしたかを問う 1 では、JL の平均が 3.00 と非常に高くなっているが、標準偏差が非常に大きくばらつきがあることがわかる。中央値を調べると 3.00 となり、JL は EL よりも、言語エクステンジを行った言語パートナーの数が多かったのが特徴であるようだ。

次にどれぐらいの時間、言語エクステンジをしたかを問う 2 ではやや JL の時間のほうが長いことがわかる。しかし、EL、JL のどちらも標準偏差が非常に大きく、中央値はどちらも 2.00 となった。

夏休み前との言語能力の比較を問う 3、言語エクステンジの満足度を問う 4、今後の希望を問う 5 では JL と EL の平均値に大きな違いがなかった。それらの平均値からは、言語能力はそれほど向上していないが、言語エクステンジに対する満足度は高く、これからも同じ人と言語エクステンジを続けたいという傾向が読みとれる。

では、実際に言語エクステンジを行わなかった学習者とはどのような学習者であろうか。それを調べるために、言語エクステンジを行った学習者と行わなかった学習者との間で、SALC アク

ティビティ直後に聞いた、良い言語パートナーが見つかったかという問いに対する得点の違いを調べた。言語エクステンジを行った学習者の平均は 4.45 であったのに対し、しなかった学習者の平均は 3.45 で、両グループの間には有意差が見られた ( $t(29) = -5.15, p < .01$ )。また、夏休みはできるだけ多く言語エクステンジをしたいと思うかという問いに対する回答を調べたところ、言語エクステンジを行った学習者の平均は 4.50 であったのに対し、しなかった学習者の平均は 4.00 で、こちらも有意差が見られた ( $t(30) = -2.08, p < .05$ )。これらの結果から、言語エクステンジを行わなかった学習者は、行った学習者に比べて SALC アクティビティで良い言語パートナーを見つけられなかった学習者で、アクティビティ直後の時点では、実際に言語エクステンジを行った学習者に比べて言語エクステンジに対するモチベーションが高いとはいえない学習者であった。

言語エクステンジをしなかった学習者になぜしなかったかを聞いたところ、以下のような結果が得られた。

<言語エクステンジをしなかった理由>

- I could not find a partner to talk with over the break. (JL1: 韓国女性)
- I could not find one person that I think I could get along with and have Skype conversations with. In addition, we met for such a short period of time that I found it hard to initiate skyping. I did not get any invitations either. The biggest reason might be that everyone could have been busy with other things in the summer, or they might have found friends around them who can practice with. (JL2: 台湾男性)
- I found out the partners we met on that day was actually not online all the time, and don't know what to talk about. (JL3: 中国男性)
- 旅行ばかりしたからです (JL4: 中国女性)
- I seldom login on the Skype. (JL5: 中国女性)
- あまり仲良くなることができていなかったので、どんな人かイマイチわからなくて言語エクステンジしようと声をかけることができなかった

ため。(EL1: 日本男性)

- ・リクエストを送ってくれなかった (EL2: 日本女性)
- ・時間をあわせる話をしなかった。学生とのかんけいに距離があった。連絡なかった (EL3: 日本女性)
- ・色々な人と話せて楽しかったのですが、それだけで終わって言語エクステンジをしようとまではならなかった。(EL4: 日本女性)
- ・良いパートナーが見つからなかった。(EL5: 日本女性)
- ・facebook 上では何度かメールはしたが、Skype でエクステンジをするにはまだそれほど親しくなかったため、行わなかった。(EL6: 日本女性)

SALC アクティビティで言語パートナーが見つからなかった (JL1, EL5) という理由を述べた者もいるが、具体的に親しくなれなかった (JL2, EL1, EL3, EL6) と述べた者もいた。また、「旅行ばかりした」、「Skype にログインしなかった」のように、その学習者自身が原因で言語エクステンジをしなかった者、「いつもオンラインじゃなかった (JL3)」、「リクエストを送ってくれなかった (EL2)」など、相手側に原因があつて言語エクステンジをしなかった者もいるようである。

## 7. まとめ

以上、本稿では 2012 年春学期に英語セクションと共同で行った SALC アクティビティ、「夏休みの Skype 言語パートナーを探そう」という企画の内容と事後アンケートの調査結果を報告した。

まず直後の質問紙調査からは、JL, EL のどちらも非常に楽しめる環境が提供できたこと、EL よりも JL のほうが有意に良い言語パートナーを見つけることができたということがわかった。そして、良い言語パートナーが見つけれなかった EL は、反対言語の友達や学習言語を話す機会が少なく、言語パートナーを見つけるための時間やできるだけ多くの人と交流できる環境を運営側に与えられることを求めているようであった。

また、夏休み後のオンラインアンケートの調査

からは、回答者のうち約 63% が夏休みに実際に言語エクステンジをしていること、そして言語エクステンジをしなかった学習者は、SALC アクティビティ直後に、良い言語パートナーを見つけられなかったと考えていたこと、言語エクステンジをした学習者に比べてできるだけ多く言語エクステンジをしたいという意識が低かったことがわかった。

これらの結果から、SALC としては、まず良い言語パートナーを見つけられるような環境を整えること、そして、その後の言語エクステンジを促進できるような意識付けを行うことが必要であると考えられる。特に反対言語基準の友達や学習言語を話す機会が少ない EL は、もっと時間をかけて話せる環境やより多くの学習者と接することができる環境を運営側に与えられることを求めている。これらの点についてはある程度、改善していけるのではないだろうか。また、SALC アクティビティを通じて、言語エクステンジをしたいという意識を高めることも重要で、PA だけでなく言語教員や実際に言語エクステンジをして言語能力を改善できたロールモデルなどが、言語エクステンジの重要性や取り組み方などを説明する機会を設けることも効果的だと考えられる。

今後は、本稿の調査の結果を踏まえて SALC アクティビティの運営方法を改善し、どのような変化が見られたかを調査したい。また、夏休みの言語エクステンジで言語能力が向上したと考える学習者が少なかったのも、その原因や改善方法についても明らかにしていきたい。

## 注

- 1) 言語エクステンジというのは、異なる言語をお互いに教え合うことである。
- 2) 2 名は中国出身の学生であった。
- 3) その他の国はネパール、ガーナ、ミャンマー、ブルネイであった。
- 4) EL にとっては英語基準が、JL にとっては日本語基準が反対言語基準となる。
- 5) 参加した JL の多くは、英語を第 2 言語として使用している者だが、英語母語話者と話したいというコメントは一つしかなく、今回のアンケ

ートからは EL が英語母語話者を求める傾向は感じられなかった。

#### 参考文献

- 1) Lucy Cooker & Michael Torpey : From the classroom to the self-access centre: A chronicle of learner-centred curriculum development , The Language Teacher, 28.6, 11-16, 2004.
- 2) 立命館アジア太平洋大学ウェブサイト a : <http://www.apu.ac.jp/academic/page/content0094.html> (2012.12.20) .
- 3) 立命館アジア太平洋大学ウェブサイト b : [http://www.apu.ac.jp/home/uploads/fckeditor/aboutAPU/factsAndFigures/Student\\_Enrollment\\_2012\\_11\\_01.pdf](http://www.apu.ac.jp/home/uploads/fckeditor/aboutAPU/factsAndFigures/Student_Enrollment_2012_11_01.pdf) (2012.12.20) .
- 4) 片山智子・菅 智穂 : 日本語初級学習者の接触場面に関する実態調査, Polyglossia, 19, 79-89, 2010.
- 5) 片山智子: 日本人学生による学習自習室での日本語会話サポートの試み, Polyglossia, 22, 185-195, 2012.